

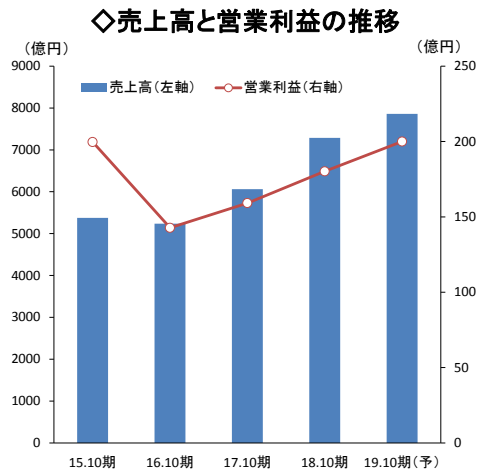
企業ニュース エイチ・アイ・エス

(東証1部：9603) <https://www.his.co.jp/>

作成者：荒木晶子

ゴールデンウィークの旅行需要拡大に期待

1980年設立の大手旅行会社。海外旅行を強みとしている。2010年、テーマパークのハウステンボス（長崎県）を子会社化。旅行事業からの集客支援やイベントの実施などにより、業績改善を目指している。また、世界の生産性を目指す「変なホテル」を中心にホテル事業を展開。旅行事業、ハウステンボスグループに続く第3の柱として、同事業を強化している。18.10期のセグメント別売上高構成比は、旅行事業89.2%、ハウステンボスグループ5.8%、ホテル事業1.5%、九州産交グループ3.0%、その他0.5%。2019年はゴールデンウィークが10連休となり、同期間の旅行需要が高まるとみられる。当社の19.10期業績には追い風となろう。



(出所) エイチ・アイ・エス資料よりCAM作成

19.10期も2桁営業増益を計画

18.10期の連結業績は、売上高が7,286億円、前期比20%増、営業利益が180億円、同13%増。計画に対して、売上高は86億円、営業利益は7億円上振れた。旅行事業は前期比21%増収、同22%増益。日本発海外旅行は、関西国際空港の閉鎖やグアムの減便が影響したものの、欧州需要の継続や韓国需要の復調などが寄与し、同16%増収となった。ハウステンボスグループは、悪天候による入場者数減と電力小売り事業の燃料コスト増で減益となった。

19.10期の通期会社計画は、売上高が7,860億円、前期比8%増、営業利益が200億円、同11%増。旅行事業は同7%増収、同10%増益を見込む。拡大が予想される旅行需要の取り込みや、M&Aにより、計画達成を目指す。中長期的視点で、ハウステンボスグループは訪日旅行客の獲得に注力している。佐世保港の拡張に伴い、2020年以降クルーズ船の発着数が増加すると見込まれている。テーマパーク内のイベントやアトラクションを再強化し、訪日旅行客を取り込む計画。

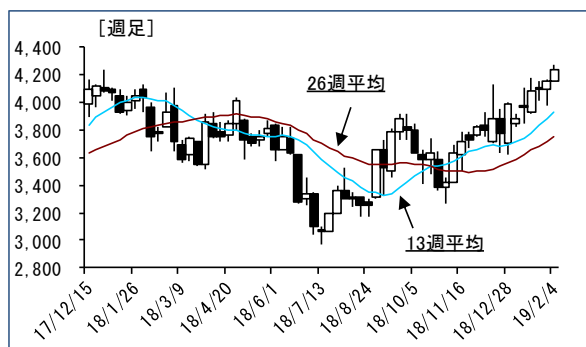
【株価動向・投資判断】

好調な業績を背景に株価は上昇している。旅行需要拡大を背景とした主力事業の拡大に加え、中長期ではハウステンボスグループとホテル事業の収益貢献が期待できよう。

<9603 HIS 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.10	606,024 (16)	15,915 (11)	19,647 (127)	13,259 (4,866)	219.5	29.00
18.10	728,554 (20)	18,024 (13)	19,440 (▲1)	10,971 (▲17)	191.3	29.00
19.10 予	786,000 (8)	20,000 (11)	21,000 (8)	11,000 (0)	192.0	30.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2019/2/4)	4,235 円
昨年来高値(高値日)	4,270 円(19/2/4)
同 安値(安値日)	2,970 円(18/7/11)
予想 P E R (19.10 予)	22.1 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,538.6 円
P B R	2.75 倍
予想配当利回り	0.71 %
(1株当たり配当金年30.00円)	
R O E (18.10)	12.6 %
発行済み株式数	6,852 万株